様式1

令和8年9月2日

令和 7 年度分　指定管理施設の管理運営状況（年間）モニタリング評価表

1 施設概要

施設の名称	浦添市立浦城っ子児童センター
指定管理者名	株式会社　オフィスハート
指定期間	令和6年4月1日　～　令和11年3月31日

2 利用状況

利用月	利用者目標数	利用者数	利用率%
4月～9月	7,884	6,829	86.62
10月～3月	4,620	5,703	123.44
合計	12,504	12,532	100.22

3 収支の状況

	予算額	実績額	差額
収入			
指定管理料	16,072,500	16,072,500	0
利用料金	96,000	48,000	48,000
受取利息	0	0	0
収入合計（A）	16,168,500	16,120,500	48,000
支出			
人件費	11,960,000	10,514,569	1,445,431
外部委託費	1,383,000	2,273,331	-890,331
その他経費	2,825,500	3,182,689	-357,189
支出合計（B）	16,168,500	15,970,589	197,911
収支合計（A）-B）	－	149,911	－

4 精算額　　149,911 円

5 自主事業

事業名	内容	利用者数
木育推進事業	発達段階に応じた木との関わりを大切にする木育推進事業として、乳幼児には木のおもちゃ、幼児・児童にはパズルやゲーム・ワークショップ等で、主体的に木と関わる活動へ段階的につなげている。木に触れることで得られる情緒の安定や感覚の発達といった木育の効果について、子どもの様子を観察・記録しながらエビデンスの蓄積に取り組んでいる。 この活動は、木育を推進し、木製品を扱ってきた弊社ならではのサービスであり、評価が高いため、引き続き注力して発展したい健全育成事業である。	12,532
浦城っ子こども食堂	3センター合同で毎週200食（1センター100食）の弁当配食を実施（年間68回）。保護課やSSWと連携し、支援が必要な家庭との関わりの契機となっている。	6,847

海のお魚プロジェクト	館内の海水槽で沖縄の海の生き物を飼育。今年度は複数回の産卵風景を観察でき、命の大切さを伝える貴重な体験を提供した(2021年からの継続)。	192
ウサギ飼育事業	利用児童が日々の世話を担い、責任感や命の大切さを学ぶ情操教育として継続している(飼育4年目)。	240
浦城っ子ファーム活動	年間を通じた栽培計画のもと、発芽から収穫までの変化を観察。思い通りにいかない経験も含めて学び、収穫の達成感を仲間と共有することで責任感・協調性を育む。	960
図書の日	毎月第3土曜は館内の蔵書に親しむ時間を設定。読書習慣と集中力を育てるとともに、児童から施設活用のアイディアも生まれている(12回)。	499
地域交流(食堂ボランティア等)	地域の方々の協力で安定した子ども食堂での食事支援を実現でき、かつ人々の生き甲斐につながっている。畑の手入れへの協力や、地域小学校の星空観察会のサポート等、日常的なつながりがより活発になり、新たな活動が育まれた。	随時
プロジェクトマナティ	3センター合同で宜野湾海浜公園のビーチクリーンを実施し、環境への意識とセンター間の交流を促した。	33
梅シロップ・赤しそジュースづくり	旬を迎える6～7月に、仕込みの工程から子どもが主体的に関わる食育活動として実施。炭酸飲料や甘いジュースに慣れたこども達と一緒に作る・飲む・健康意識を働きかける体験を行った。	251
児童センターフェスティバル	木育の一環としてクリスマスチャーム作り・マイ箸作り・木工体験の3ブースを展開し、本物の道具に触れる体験を提供し、親子共に大変好評を得た。	47
2025年度メンバー創造事業 ギャラリースペースオープン (2月から)	子どもだけでなく、地域の方の作品を展示することを目的に、オープンスペースをスタート。作品が飾られる喜びが自己肯定感を高め、地域との交流を生んでいる。(地域からの新たな出展はまだなし)	随時
合計		21,601

6 指定管理者の分析(サービス向上の取組等)

当センターの自主事業は「木育推進事業」を中核に据えている。乳幼児期には木のおもちゃを通じて素材の温もりや感触を体験できる機会を提供し、幼児・児童期にはパズルやゲーム、ワークショップなど、発達段階に応じて主体的に木と関わる活動へと段階的に展開している。木に触れる体験は情緒の安定や感覚の発達に資するとされ、職員が子どもの様子を丁寧に観察・記録しながら、その効果をエビデンスとして蓄積していく姿勢を継続している。木育推進事業には年間延べ12,532名という3センター中で最も多い参加を得ており、木に親しむ魅力ある環境づくりが高い利用へと結びついている。

浦城っ子ファーム活動では、年間を通じた栽培計画のもとで発芽から収穫までの変化を観察し、職員が声かけや支援を行いながら、気づきや学びを深められるよう工夫している。天候や環境の影響を受けて思い通りに育たない経験も含めて学びの機会と捉えている点に、当センターの教育的なねらいがよく表れている。収穫の際には達成感や喜びを仲間と分かち合う姿が見られ、活動への意欲向上にもつながっている。

食の支援においても、当センターは3センター中で最大規模の実績を上げた。3センター合同で毎週200食を配食する体制のもと、年間68回・延べ6,847名(児童5,478名、保護者1,369名)へ昼食支援を届けている。賞味期限間近のマジックライスの活用から始まった取組は、保護課やSSWとの連携を通じて、不登校やネグレクトが心配される家庭との関わりのきっかけとなるなど、福祉的な役割を担うまでに発展した。2025年度には300万円の助成金を活用して長期休暇中の配布を充実させ、地域企業からの月1回の弁当寄付も得られるなど、活動が地域に広く周知され、支援の輪が広がっている。

体験活動では、海のお魚プロジェクトにおいて今年度は複数回の産卵風景を観察することができ、利用児童に命の営みを間近に感じる貴重な体験を提供できた。ウサギ飼育とあわせて、生き物の世話を通じて命の大切さや責任感を育む情操教育を継続している。図書の日は、紙の本にじっくり向き合う落ち着いた時間として定着し、児童からセンターの活用方法についてのアイディアが積極的に出されるようになるなど、施設への愛着と参加意

識の高まりも感じられた一年であった。

地域との関わりは、当センターの運営を支える重要な基盤となっている。地域の方々の協力によって安定した食事支援が実現しているほか、センターの畑の手入れにも協力をいただくなど、日常の場面で地域とのつながりが育まれている。さらに、地域の小学校が実施した星空観察会のサポートを行うなど、センターが地域の活動を支える役割も担っている。今後も、栽培・食・読書・地域連携の各取組を一層充実させ、地域全体で子どもを支える温かいコミュニティづくりの拠点として、運営を継続・発展させていきたい。

7 項目別評価表　　市評価年月日　令和8年9月2日

指定管理者と市が評価する。　（4:優良　3:適正　2課題含　1要改善）

施設の状況により、項目内容は変更する場合がありますが、25項目数は変更しない。

項目	維持管理に関すること（年2回以上） 【適正性】	自主評価	市評価
①	法令等を遵守しているか。	4	4.0
②	労働環境は適正か。	4	3.7
③	収入・支出の取扱は適正か。	4	3.3
④	年間事業計画のとおり業務を遂行しているか。	4	4.0
⑤	開館時間、休館等は適正か。	4	4.0
⑥	利用者の個人情報保護は適正か。	4	4.0
⑦	日常の事故防止、安全対策は適正か。	4	4.0
⑧	日常の清掃は適正か。	4	3.7
⑨	防犯・警備業務は適正か。	4	4.0
⑩	備品の管理は適正か。	4	3.7
⑪	施設の維持管理（修繕）は適正か。	4	3.3
⑫	危機管理体制（緊急時対応）は適正か。	4	4.0
⑬	施設の使用許可、使用料の減免は適正か。	4	3.7
⑭	利用者に対する接客や職員態度は適正か。	4	4.0
⑮	施設の維持管理に係る人員は適正か。	4	3.7
⑯	施設の定期保守点検は適切か。	4	3.7
16項目	小計	64	60.8

点数を記載する。

項目	経営等事務処理に関すること（年1回以上） 【効率性】	自主評価	市評価
①	適正な経理事務であるか。	4	4.0
②	省エネルギー等環境配慮に努めているか。	4	3.7
③	支出の減少を図る取組を行っているか。	4	3.7
④	職員の資質・能力の向上を図る取組をしたか。	4	4.0
4項目	小計	16	15.4
項目	【有効性】		
①	施設の設置目的が十分に達成できたか。	4	3.7
②	利用者の意見を把握するしくみが確立しているか。	4	4.0
③	協定は遵守しているか。	4	4.0
④	利用者の満足度はどうか。	4	3.3
⑤	地域のため貢献しているか。	4	4.0
5項目	小計	20	19.0
25項目	合計	100	95.2

8 評価基準

（前ページの25項目（年間）合計を100点満点とする。）

	評価点	評価内容
項目別評価	4	法令等を遵守し、計画された業務水準を超える指定管理者独自の取組を実施するなど、特に優れている。
	3	法令等を遵守し、適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準のとおり成果を上げている。
	2	法令等を遵守しているが、指定管理業務の一部に課題がある。
	1	法令等を遵守しておらず、改善の必要がある。又は年間を通じ計画された業務の水準を達成できなかった。

ここでの「法令等」とは、法令、条例、規則、協定書、仕様書、事業計画書等をいう。

	評価		評価内容
総合評価	A	優良	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ90点以上である。中間評価の場合は、53点以上とする。
	B	適正	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ75点以上90点未満である。中間評価の場合は、45点以上53点未満とする。
	C	課題含	市の項目別評価に2点が1つでもある。
	D	要改善	市の項目別評価に1点が1つでもある。

9 市の総合評価

評価	評価コメント
A	・概ね適正に管理運営されていることを確認した。自主事業も多く実施し、こども食堂にも力を入れており、特に木育推進事業の利用者は多く、利用者アンケートでも、こどもの情緒面等で好影響があったとのことで、肯定的だった。また、地域との交流も円滑に行われていることが伺われ、評価できる点である。引き続き、適正な運営を継続し創意工夫に努めていただきたい。 ・業務共有ソフトLARKの導入による情報共有など業務改善への取り組みを確認した。 ・当施設は立地条件が良く、駐車場も利用可能であるものの一般利用が少ない状況にある。今後は利用者の増加に向けた効果的な取り組みを展開されたい。 ・賞与を始めとする、諸手当の支給について給与規定との整合性を図る観点から、適切な運用状況となるよう改善を図られたい。 ・プレイルームの経年劣化に伴い、天井ベニヤの剥離による危険性が確認された。予算措置を伴う案件だが、利用者の安全を確保するため、今後の対応について検討を図られたい。 ・市内の中でも児童数の多い地域であり、多くの要望が寄せられる中、乳児から児童期を対象とした木育活動は非常に貴重な経験だと再認識できた。すばらしい木育スペースの活用をもっと地域の未就学児に利用していただく方法はないか、引き続き調査・研究に努めて欲しい。 ・体育館の天井部分からの落下物は大変気になるところだが、体育館の使用範囲に制限を設けた為、男児利用が減になったとのこと。再び呼び戻すための考案として、けん玉を推進し、利用者が戻った実績はすばらしい。当センターの専門分野の人材の確保と、工夫が印象的だった。（落下物修繕には急ぎ取り組んで欲しい）